



歴史に触れる

念仏塚碑(和合)



智通上人・達智上人(祐福寺)



五輪堂(諸輪)



お散歩ガイド

百度石(浅間神社)



# 東郷の文化財や 歴史を体感!

馬頭観音(傍示本)



長池川道標尊  
(部田)



東郷村

M39  
(1906)~

常夜灯(諸輪)



春木村

M11  
(1878)~

アバマキ(傍示本)



諸和村

M22  
(1889)~

部田村

へた

祐福寺村

ゆうふくじ

傍示本村

ほうじもと

和合村

わごう

諸輪村

もろわ

部田・清水・  
兵庫・三ツ池

春木  
祐福寺  
台

傍示本・白土・  
西白土

和合・和合ヶ丘・  
白鳥(一部)

諸輪・諸輪住宅・  
白鳥・御岳・北山台・  
押草団地(北)・  
押草団地(南)



## 絵画

### 1 絹本着色 円光大師画像 一幅

えんこうだい し  
玉松山祐福寺蔵 (名古屋市博物館寄託中)  
年代/室町初期  
縦 71.5cm 横 36cm

浄土宗祖法然上人画像原本といわれる知恩院本及び嵯峨二尊院本に近似しています。

損傷が少なく精密に描かれています。知恩院本の方は、袈裟が黒色であるのに対し白色で、持物に多少の相違があるものの門流分派による解釈の差で生じたものと考えられます。



### 2 絹本着色 遣迎二尊画像 一幅

けんごう に そん  
玉松山祐福寺蔵 (名古屋市博物館寄託中)  
年代/室町初期  
縦 96.5cm 横 57.5cm

浄土信仰を現す二河白道図（にかびやくどうず）を二体の仏像によって象徴したもので、水・火の二河にはさまれた細く白い道で浄土へ向かう往生人を、彼岸に立って招く「迎」の阿弥陀仏、進みなさいと励ます「遣」の釈迦牟尼仏を現したものです。



## 史跡

### 4 ゆうふくじ いちりづか 祐福寺 一里塚

春木字新池150-1、春木字小坂10 (岡崎街道沿い)  
年代/江戸時代初期

名古屋と岡崎を結ぶ駿河街道に設けられた里程標のひとつ。慶長17年(1612)、名古屋城の築城とともに徳川家康によって名古屋と岡崎の近路として開かれました。

街道には松並木が植えられ一里塚も築かれました。それらの殆どが消滅しましたが、この一里塚のみが双ヶ塚をなし、徳川期交通上の遺産となっています。昭和45年に北側の塚上に石碑を築き、南側の塚の周囲には、塚の崩壊防止の石積みを行っています。



### 5 くらざさなごうかま 黒笹七号窯

尾三衛生組合 東郷美化センター 敷地内  
年代/平安時代初期  
須恵器、白瓷兼業窯跡

この付近一帯は、奈良・平安時代に日本の窯業の中心となった猿投山西南麓古窯跡群の中央に当たり、最も優れた須恵器や灰釉陶器を焼いたところです。

窯体は全長9.6m。焚口から煙出しまで完全に残り、中央部付近の天井も一部残存。出土品には、碗・杯・高坏・盤・平瓶・長頸瓶・鉢・甕・硯などがあり、珍しいものでは、平瓶の蓋に用いられた鳥鈕蓋（とりちゅうぶた）があります。





## 彫刻

- 3 木造 正(聖)観音菩薩坐像 かんのん ぼ さつ ざ ぞう  
(秘仏) 一軀  
 恵日山観音寺蔵  
 年代/南北朝時代  
 高さ 47.5cm

寄木造の彫眼着彩の小像です。膝裏に「文和二年卯月十八日癸巳年幸城」(1353)と墨書銘があり、光背は62cm余りの宝珠形松の一枚板で着彩は優美です。

台座は、七重蓮華坐八角形で、框座に「貞和参年亥十二月廿三日勸進聖浄空」「両和常樂寺貞和三年十二月廿三日円実房聖浄空」(1347)の墨書銘があります。御開帳は17年毎で、次は令和8年の予定です。



- 7 銅造 如来形立像 一軀 にょらいぎょうりゅうぞう  
 玉松山祐福寺蔵 (名古屋博物館寄託中)  
 年代/奈良時代  
 像高 9.7cm

奈良時代の特徴的形式「偏袒右肩(へんたんうけん)」の肩衣(かたぎぬ)を身に着けています。

焼損と考えられる右腕は、屈臂して修復されています。

本体・反花座(かえりばなざ)並びにその下の台座丸框(まるかまち)までを一鑄で製作され、台座の上に両足をそろえて立っています。



## 建造物

- 6 祐福寺 勅使門 ゆうふく じ ちやくしもん  
 玉松山祐福寺  
 年代/室町時代

大永8年(1528)5月、後奈良天皇より勅願寺たる旨の綸旨(りんじ)を賜り、このとき勅使を迎えるために建造されました。

勅使の通行に使われるための柿葺一間一戸の中門で、朱塗りの扉に十六菊花の紋章が鮮やかに刻まれています。

後に、門の傾斜を支えるため控柱と貫によって補強されているものの本柱及び木製礎盤等は、建立時からのもので室町時代の建築様式をよく残しています。



### 郷土史ミニ事典 ①

#### “5つの村から”

東郷町は、人口の増加により昭和45年(1970)に村の区域がそのままの形で東郷町になりました。

東郷村は、明治39年(1906)に諸和村と春木村が合併して誕生していますが、その前の村としては、諸和村が、諸輪村と和合村の合併により誕生しています。

同じく春木村が、傍示本村と祐福寺村と部田村の合併により誕生しています。

各村の規模は、尾張藩がまとめた「寛文村々覚書」によれば…

諸輪村……家数71・人数589・馬37  
 和合村……家数42・人数239・馬20  
 傍示本村…家数37・人数320・馬22  
 祐福寺村…家数23・人数158・馬8  
 部田村……家数36・人数304・馬13



## 建造物

### ① ゆうふく じ さんどう ど べい 祐福寺参道 土塀

玉松山祐福寺  
年代/江戸時代  
幅(長さ) 2.7m



天保14年(1843)冬、第48世仁空上人は、総門から勅使門に至る参道の両側に土塀を築いて、境内一山の美観を整えました。

最北部東側の土塀のみが、築造時の工法のまま保存されています。



### ⑬7 ちやくしもん わきもん すじべい 勅使門の脇門及び筋塀

玉松山祐福寺  
年代/江戸時代  
脇門 高さ 3.5m 幅 2.1m  
筋塀 高さ 2.5m 幅(東側) 10.6m  
幅(西側) 8m

参道由緒記の石に「高三尺石五尺土塀勅使門脇筋塀合築之」、また勅使門の奉修を記した天保15年(1844)正月の棟札に「古来無筋塀今始而造立筋塀」とあり、建造年月に時差はあるものの勅使門と一体のものです。



## 郷土史ミニ事典②

### “参道土塀の築造そして勅使門の修復と 勅使門脇門及び筋塀の築造”

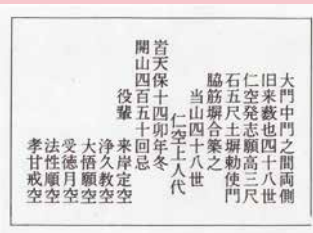


勅使門手前石段の左端石垣最上段に「参道由緒記の石」が、はめ込まれている。

そこには、参道の白土塀が天保14年12月の築造であることが記されています。

ます。

また勅使門の棟札には、天保15年1月に勅使門の修復とともに脇門と筋塀を築造したことが記されています。



## 気になる石造物(1)

### “県立旭丘高等学校東郷分校跡碑”

昭和24年、東郷が日進・天白・豊明・三好の中心地にあることから東郷村に定時制課程として、県立旭丘高等学校東郷分校が開設されました。

分校の使命は、県立東郷高校に引き継がれ昭和45年3月に歩みを止めましたが、在りし日を偲んで小学校駐車場敷地内に石碑が建立されました。





## 彫刻

### ② 木造 あき ば だいごんげんぞう 秋葉大権現像 一躯

玉松山祐福寺蔵  
年代・江戸時代  
像高 68cm

岩上の白狐を踏まえ忿怒烏天狗の形相で右手に剣、左手に索縄を持つ。

火焰背面の「金子弼寄附金城為隆」の銘から、天明年間（1781～1789）頃に名古屋で活躍した彫刻家“為隆”の作品と考えられます。



### ①9 木造 びしゃもんてんりゅうぞう 毘沙門天立像 一躯

玉松山祐福寺蔵  
年代/鎌倉時代  
像高 84.6cm 総高 96cm（邪鬼含む）

髪を頭上で束ねた根元の宝髻（ほうけい）を結び、宝冠（ほうかん）を被っています。左手には宝塔を載せ、右手には剣に長い柄のついた戟（げき）を持って邪鬼の上に立っています。



### ①6 木造 やく し にょらい ざ ぞう 薬師如来坐像 一躯

松境山円盛寺蔵  
年代/平安時代後期  
像高 79cm

南岡ノ上の薬師山にあった薬師堂の本尊でした。堂とともに江戸時代末期頃に円盛寺境内に移され、今は本堂脇壇に安置されています。

坐像本体は桧の寄木造り地肌の柱目から白木仕上げであったと考えられます。

大きく高い“肉髻（けい）、彫眼の眼、線が少なく彫が浅い衣文”など平安後期の特徴をよく表しています。



### ②0 木造 じゅういちめんかんぜおんぼさつりゅうぞう 十一面観世音菩薩立像

玉松山祐福寺蔵  
年代/平安時代後期  
像高 162cm

クス材の一木造り。髪を頭上で束ねた根元の髻頂（けいちょう）に仏面、頭部地髪部に菩薩面を配する。

体幅ほどの蓮華座に両足をそろえて立っています。





## 絵画

### ⑩ 絹本着色 ほうかん みださんぞんず 宝冠弥陀三尊図 三幅

玉松山祐福寺蔵  
年代/南北朝～室町時代  
中央本紙 縦103.5cm 横56cm  
左右本紙 縦100.5cm 横38.4cm

中央に説法印を結ぶ宝冠阿弥陀をおき、左右に勢至菩薩・観音菩薩を配しています。唐から伝来した切金の装飾技法を用いているものの宗風洋式で着衣や台座は細密かつ巧妙に描かれており、南北朝時代から室町時代頃の制作と推察されます。



### ⑪ 絹本着色 いっそんみ だらいごうず 一尊弥陀来迎図 一幅

玉松山祐福寺蔵  
年代/室町時代  
縦95.8cm 横36.5cm

切金技法が全面的に使用され、細密かつ巧妙に描かれており、室町時代中期の作と推察されます。

軸装裏面に明治6年修補についての墨書銘があります。



### ⑫ 絹本着色 さんぞんみ だらいごうず 三尊弥陀来迎図 一幅

玉松山祐福寺蔵  
年代/室町時代  
縦121cm 横48.2cm

阿弥陀如来に脇侍として観音、勢至の両菩薩が描かれています。

この図も切金装飾技法で描かれ、室町時代の作と推察されます。

軸装裏面に「三尊弥陀思恭玉松山祐福寺什物寛政八辰奉修補綜空上人代」の墨書銘があります。



### ⑬ 紙本着色 ていかん ず 帝鑑の図 (六曲屏風) 一隻

玉松山祐福寺蔵 (名古屋博物館寄託中)  
年代/桃山時代末  
縦1127cm 横左右両端各51cm  
横中4面各54.5cm

帝鑑図は中国の帝王の行跡を描いたもので、近世初期に狩野派の好画題となっており、内裏城郭の障壁画などに描かれました。

本図は、「海北」白文長方印と「松雪」朱文円印が捺されており、一隻のみ現存する。狩野派の帝鑑図作画の成立に関わる貴重な作です。





## 18 絹本着色 あみださんぞんらいごうず 阿弥陀三尊来迎図 三幅

玉松山祐福寺蔵 (名古屋市博物館寄託中)  
年代/鎌倉～南北朝時代  
阿弥陀如来幅 縦84.3cm 横26.5cm  
勢至菩薩幅・観音菩薩幅 縦84.3cm 横26.1cm

第4世融伝上人が加賀白山より伝授され、当山の本尊仏として伝来しています。立像系斜め向き来迎図であることや、極端に姿勢の異なる両菩薩の組み合わせであること、巨大な二重頭光などから製作年代は、南北朝時代のものといえます。

また一幅一尊で三福とする形式は類例が少なく、中世来迎図の展開を解明する上で貴重です。



## 22 絹本着色 たいまんだら 当麻曼荼羅 一幅

玉松山祐福寺蔵 (名古屋市博物館寄託中)  
年代/南北朝時代  
本紙 縦171cm 横155.5cm

当麻曼荼羅は、当麻寺（奈良県葛城市）に伝来する国宝、綴織（つづれおり）当麻曼荼羅を原本として、多くの模本が制作されています。4メートル四方の原本に対し、本図は6分の1で縦長の画面に再構成されています。

作成・伝来ともに尾張地域の当麻曼荼羅の作例として貴重であるとともに鎌倉時代創建と伝えられる祐福寺の歴史や町の歴史を紐解く貴重な資料です。



名古屋市博物館（撮影）

## 23 絹本着色 ふどうみょうおうぞう 不動明王像 一幅

玉松山祐福寺蔵 (名古屋市博物館寄託中)  
年代/室町時代  
本紙 縦86cm 横39.5cm

右手に三鈷柄剣（さんこづかけん）、左手に羂索（けんさく）を持つ不動明王が岩座の上に立っています。

通常、不動明王の左右に配される侍者である制吒迦童子（せいたかどうじ）と矜羯羅童子（こんがらどうじ）を本図では画面右側にまとめ、画面左側に不動明王の剣の化身である俱利伽羅龍（くりからりゅう）を独立して描いています。不動明王は、祐福寺中興の祖達智上人（1389年没）の念持仏であると伝えられており、制作年代は二童子の容貌表現から室町時代と推定されています。



名古屋市博物館（撮影）

## 気になる石造物（2）

### “又池の庚申さん”

県道瀬戸大府線沿いで東郷町の南端、豊明市との境に又池があり、池の上に張出した形で祠が造られています。



集落外からの疫病や災難の侵入を防ぐため、村人の願いや祈りの場として祀られたのでしょう。

六臂の青面金剛像が、2頭の邪気を両足下に踏まえ、台石には「見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿が浮き彫りされています。



## 文書

### ③ かきとどめちよう 書留帳 三冊

玉松山祐福寺蔵 (名古屋博物館寄託中)

年代/江戸時代

綜空上人誌 留帳 縦28cm 横20cm 厚4cm

俊海上人誌 公用留 縦27cm 横18cm 厚13cm

山用留 縦27.5cm 横18cm 厚18cm

内1冊は42世綜空鍊耕上人が寛政年間(1789~1800)に誌したもので、中世文書の写しのほか、江戸時代中期の世情の出来事や政情、寺内の諸行事についての沿革的な記録を伝えています。他の2冊は「公用留」「山用留」と分けられており49世俊海上人が嘉永2年(1849)から誌したもので、江戸時代後期の世情の出来事や政情、寺内の諸行事について沿革的な記録を伝えています。



### ④ ゆうふくじ えんぎ 祐福寺縁起 二巻

玉松山祐福寺蔵 (名古屋博物館寄託中)

年代/江戸時代

當山縁由起 縦29.5cm 横 61.2cm

本尊縁起 縦24cm 横92cm

「本尊縁起」には、本尊の小三尊は第4世融伝上人が加賀の白山から与えられたものであると記されています。



もう一巻の「當山縁由紀」には“祐福寺記、小三尊縁起、當山草創之縁起、尾州愛知郡鳴海山融伝泉碑銘并序“が記されています。“祐福寺記“は、第33世黙全上人が享保15年(1730)に記したもので、当時の周囲の自然環境や景観などが記述されていると共に寺内の諸堂や仏像などについても述べられています。

## 郷土史ミニ事典③

### 歌って伝える東郷の歴史「東郷行進歌」

東郷町では、大正10年(1921)頃に「東郷行進歌」が生まれました。その頃、小学校は東郷尋常高等小学校だけでした。村の区域は今と同じですから児童の通学は、距離もあり時間もかかって大変だったそうです。その頃の道路は、人が通るだけの細い道でした。そのため通学途中にイノシシやキツネ、ヘビなどに会うことも多かったのではないのでしょうか。

このときの久米錠太郎校長が、児童の登下校時に大きな声で歌わせたそうですので、通学の安全を考えて作った曲と思われます。子供たちの安全とともに郷土の歴史や文化を歌で学べるように配慮されており、7番まである歌詞が、それぞれ意味深い内容となっています。1番を楽譜付きでご紹介します。

**東郷行進歌**

作曲：久米錠太郎  
コード追記 haba

♩ = 85

G G Am7 D7 G Am7 G D7

わー れら もろわに うまれきて わごうの さー とに ふうは なく

9 G Em G Am7 G Am7 G Am7 G

しいー じ はるきには なさきて とうごう むー らの たのしきよ



## 工芸品

### 14 うんぱん 雲版 一面

玉松山祐福寺蔵 (名古屋博物館寄託中)  
年代/室町時代中期  
縦 (中央残存部) 39.5cm 横 48.5cm 厚 2cm弱

雲版は衆僧の睡眠をさます時や、坐禅を終る時或いは斎食の時を知らせるための合図など多岐にわたって使用されるもので、輪郭を雲形につくるところからこの名があります。

表面に「寶珠菴公用」、裏面に「正長二年九月二日」(1429年)と刻まれており、首部が欠損しているものの室町時代中期の貴重な文化財です。



### 15 ひなわしきさきこみじゅう 火縄式先込銃 二丁

和合春日社蔵  
年代/江戸時代中期  
全長 97.8cm 銃身長 65.7cm 口径 1.5cm  
全長 98.7cm 銃身長 69.3cm 口径 1.5cm

和合村は、慶長3年(1598)から大正7年まで猿投祭りに参加していました。猿投神社までの道中は馬の鞍に「だし」を飾り、警固として棒の手組・鉄砲組と隊列をととのえ、火縄銃が重要な役割を担っていました。和合春日社の祭礼にも火縄銃が警固役で祭を盛り上げていました。

二丁の銃は江戸時代中期の製作で銃身に「国友紋三郎」の銘が刻まれています。



### 21 かけぼとけ 懸仏 (秘仏) 一面

傍示本春日社蔵  
年代/室町時代中期  
直径 42cm 厚 2.5cm

永享2年(1430)に沓掛城主(近藤氏)が奉納寄進しているもので、円形の鏡板(かがみいた)上に薄い銅板が貼られ、中央に2尊(たい)の仏像が配されています。背面には奉納寄進の時期と寄進者名が墨書されていて、この内容から傍示本村は、永禄3年(1560)の桶狭間の戦いのおきまで、100年以上の間、沓掛城主である近藤氏の勢力下であったことがわかります。



## 郷土史ミニ事典④

### 世界のゴルフ史に大きく貢献した “和合コース”のクラブハウス

昭和34年、名古屋ゴルフ倶楽部から寄贈された和合コースの初代クラブハウス建物の一部「食堂部分と婦人控室」は、村役場庁舎として活用されてきました。

昭和52年から平成16年までは、町の郷土資料館として活用されました。

現在、食堂部分は「いこまい館」の敷地内に置かれ、婦人控室部分は、「商工会館」の前に保存されています。





## 天然記念物

### ⑧ アベマキ (ブナ科)

二樹  
樹令約300年

東側樹は高さ16m、幹まわり3.3m、枝張り東西15m、南北14.5m。西側樹は高さ8.7m、幹まわり2.9m、枝張り東西13.8m、南北18.5m。町内に存する「アベマキ」としては最高に生育した巨木であり、傍示本の「大ドチ」として親しまれています。



### ⑨ クログネモチ (モチノキ科)

二樹  
樹令約300年

指定当時は三樹であった。北に隣接する春日社にもクログネモチが生育しており合計“四樹”が連続して直線状に並んでいたことから、往時の地境に植えられたものであると考えられています。東光寺に残る二樹は、北側が毎年赤い実をつける雌株で高さ9.2m、幹まわり1.6m。南側の雄株は高さ11m、幹まわり1.7mの容姿で往時の様子を今に伝えています。



## 無形民俗文化財

### ⑤ 諸輪の棒の手

棒の手は六尺棒を中心とする芸能だが、流派によっては長さ、太さの違ういろいろな棒が使われています。太刀・薙刀・槍・手鎌・鎖鎌さらに十手などもある。服装は、どこの流派もおおむね共通して派手、地味の差はあるが、袴纏・胸当・角帯・手甲・股引・脚絆・足袋に草鞋をはき、鉢巻をしめ襷掛けの姿となっている。技法は複雑で互いに相手の隙を見付けて打ち合うきわめて危険な技法も含まれ、よほどの修行を経ないと実演は許されなかった。慶長3年(1598)に猿投神社祭礼の合宿に参加しており、歴史ある伝統芸能として現在まで傳承されています。



### ⑥ 諸輪の囃太鼓

諸輪地区には、古くから五穀豊穡、家内安全、村中安全の祈りを捧げるための打囃太鼓が傳承されており、明治期になって最盛をきわめました。

現在は夏の観音祭りなどに打囃が奉納演奏されています。「上組・下組・林組」の3台の囃台による競い合いは、祈りの感情が盛り込まれ、激しいバチ捌きが力強く勇ましく、近郷にまでも響きわたります。



### ⑦ 部田の祭りばやし

傍示本、祐福寺、部田の各地区では、徳川時代初期より各神社の秋祭り、末社の祭礼、月並祭等には、必ず「かがりあげ」として“祭りばやし”が奉納されました。「かがりあげ」は、そこに住む人々の心のあらわれであり、五穀豊穡・家内安全・村中安全への祈りでした。現在は、部田地区のものだけが伝えられています。



# 指定文化財 一覧

## 愛知県指定文化財

|   | 種類 | 名称         | 所在地                     | 所有者又は管理者              | 指定年月日    |
|---|----|------------|-------------------------|-----------------------|----------|
| 1 | 絵  | 円光大師画像     | 春木字屋敷 3417              | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | S32.1.12 |
| 2 | 絵  | 遣迎二尊画像     | 春木字屋敷 3417              | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | S32.1.12 |
| 3 | 彫  | 正(聖)観音菩薩坐像 | 諸輪字観音畑 8                | 恵日山観音寺                | S37.3.10 |
| 4 | 史  | 祐福寺一里塚     | 春木字小坂 10<br>春木字新池 150-1 | 東郷町                   | S43.3.11 |
| 5 | 史  | 黒笹七号窯      | 諸輪字百々 51-271            | 尾三衛生組合                | S50.6.16 |
| 6 | 建  | 祐福寺勅使門     | 春木字屋敷 3417              | 玉松山祐福寺                | H2.2.14  |
| 7 | 彫  | 銅造如来形立像    | 春木字屋敷 3417              | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | H29.8.25 |

## 東郷町指定文化財

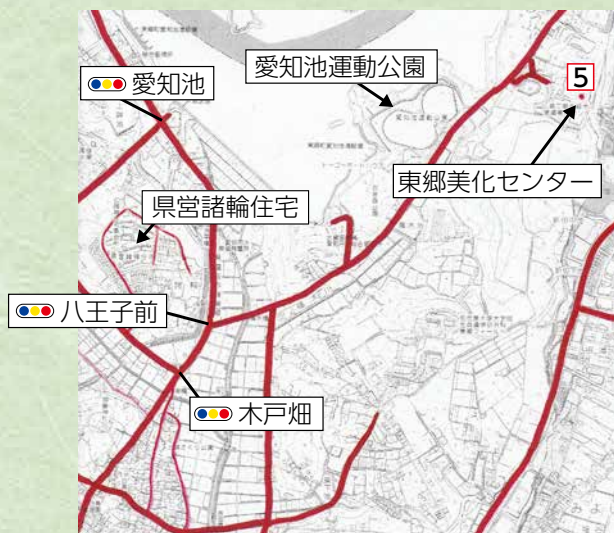
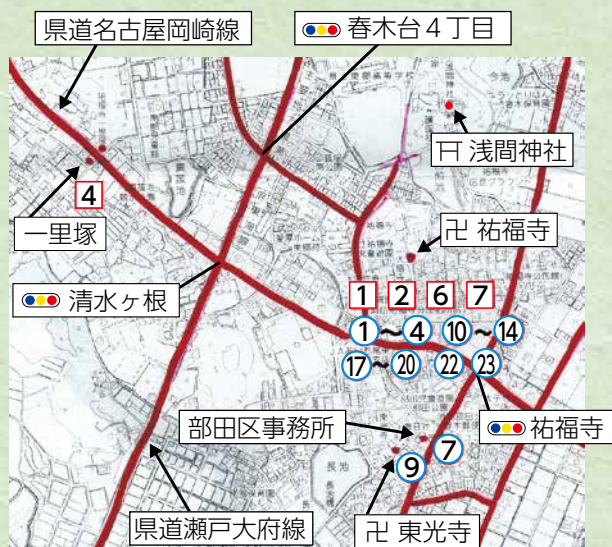
|    | 種類 | 名称         | 所在地          | 所有者又は管理者              | 指定年月日    |
|----|----|------------|--------------|-----------------------|----------|
| 1  | 建  | 祐福寺土塀      | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | S54.5.21 |
| 2  | 彫  | 秋葉大権現像     | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | S54.5.21 |
| 3  | 文  | 書留帳        | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | S54.5.21 |
| 4  | 文  | 祐福寺縁起      | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | S54.5.21 |
| 5  | 無  | 諸輪の棒の手     | 諸輪字中市 135-73 | 諸輪棒の手保存会              | S54.5.21 |
| 6  | 無  | 諸輪の囃太鼓     | 諸輪字中市 135-73 | 諸輪囃子太鼓保存会             | S54.5.21 |
| 7  | 無  | 部田の祭ばやし    | 春木字北切山 5751  | 部田祭ばやし保存会             | S54.5.21 |
| 8  | 天  | アベマキ       | 春木字北所屋敷 1042 | 個人宅                   | S54.5.21 |
| 9  | 天  | クロガネモチ     | 春木字西前 6065   | 医王山東光寺                | S54.5.21 |
| 10 | 絵  | 宝冠弥陀三尊図    | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | S57.4.14 |
| 11 | 絵  | 一尊弥陀来迎図    | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | S57.4.14 |
| 12 | 絵  | 三尊弥陀来迎図    | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | S57.4.14 |
| 13 | 絵  | 帝鑑の図       | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | S57.4.14 |
| 14 | 工  | 雲版         | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | S57.4.14 |
| 15 | 工  | 火縄式先込銃     | 和合字南蚊谷 168   | 和合春日社                 | H2.7.11  |
| 16 | 彫  | 薬師如来坐像     | 春木字中通屋敷 1287 | 松境山円盛寺                | H2.7.11  |
| 17 | 建  | 勅使門の脇門及び筋塀 | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | H3.4.1   |
| 18 | 絵  | 阿弥陀三尊来迎図   | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | H5.5.1   |
| 19 | 彫  | 毘沙門天立像     | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | H24.3.20 |
| 20 | 彫  | 十一面観世音菩薩立像 | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺                | H24.3.20 |
| 21 | 工  | 懸仏         | 春木字上ノ畑 996   | 傍示本春日社                | R3.8.18  |
| 22 | 絵  | 当麻曼荼羅      | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | R5.6.14  |
| 23 | 絵  | 不動明王像      | 春木字屋敷 3417   | 玉松山祐福寺<br>(名古屋博物館寄託中) | R5.6.14  |

絵：絵画、彫：彫刻、史：史跡、建：建造物、文：文書、無：無形(民俗)、天：天然記念物、工：工芸品

# 東郷町 文化財マップ

□…県指定文化財

○…町指定文化財



## 気になる石造物 (3)

### “丹羽山から丹羽塚へ”

諸輪字南木戸西の地に「丹羽山」と呼ばれた小山がありました。小牧・長久手の戦いで亡くなった武士の墓と伝えられています。

元は田に囲まれ、樹木が生い茂り、頂上に石像らしき石造物があって、旧8月5日に子供相撲などが奉納されていたようです。

昭和42年(1967)、土地改良事業で山がなくなったため、すぐ近くの現在地に移し、「丹羽塚」として保存されています。現地には石柱が建てられてあり、「丹羽福誠」と刻まれています。

